

令和5年度 第1回鶴岡市健康なまちづくり推進協議会会議録（概要）

- 日 時 令和5年7月19日(水)午前10時から午前11時30分
- 会 場 鶴岡市総合保健福祉センター にこ♥ふる 3階 大会議室
- 次 第
報告 健康意識・行動調査について
協議 「いきいき健康つるおか21保健行動計画」重点項目の進行管理について
- 出席委員
富樫正樹（毛呂光一委員代理）、伊藤亜紀子、蛸井幸、蘆野吉和、武田辰哉、七森玲子、藍陽子、秋山美紀、千田洋子、佐藤まさ子、齋藤邦夫、佐藤しおり、庄司弘子、脇山拓
- 欠席委員
福原晶子、鈴木千晴、長谷川清
- アドバイザー 慶應義塾大学 武林亨
- 市側出席職員
健康福祉部長 佐藤繁義、健康福祉部参事（兼）健康課長 佐藤正直、健康課主幹 鈴木美幸、健康課課長補佐 斎藤啓、健康課母子保健主査 佐藤まゆみ、同課母子保健主査 児玉奈美、同課成人保健主査 小細澤邦子、同課成人保健主査 武田幸士、同課高齢保健係主査 石井美喜、同課保健総務係主査 吉野崇子、同課保健総務主査 加藤千幸
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者 なし

1. 開会 進行：事務局

2. 会長挨拶：

おはようございます。今年度、29年度から5年計画の次の計画策定の指標として、市民健康意識調査を行うこととなり、保健推進員が調査役として協力してもらうことを説明したところです。私自身は、この取り組みを5年前も経験しました。5年もたつと役員の交替があり、調査未経験者が大半なので取り組み方がわからないという声もありました。調査人数が町内によってばらつきがある、年齢を84歳までに引き上げたことにちょっと疑問はありますが、推進員みんなで一生懸命取り組もうと話したところです。

今日のこの会議も一人一人気持ちが違って意見も違うと思いますが、アドバイザーの先生からもいいアドバイスが聞けるのではないかと思います。11時半までの時間、皆さんどうぞよろしくをお願いします。

3. 報告

健康意識・行動調査について
(事務局報告)

委員：

昨日、酒田市で同じような行動計画の会議がありまして、アンケート調査は70歳までとなっており、今後は75歳から85歳ぐらいになるといろいろと起こってくるので、やはりその年齢のアンケート調査は非常に重要だと感じました。鶴岡市の84歳まで年齢を引き延ばしたのは、非常に妥当な線ですね。昨日は睡眠時間が足りてますか？という質問があって、よく眠れてない、不眠という感覚があまり意味を成さないことで時間がしっかいかいてあるのはいいかなと思います。

もう一つはかかりつけ医については、非常に曖昧に受けとられて、ところがかかりつけ歯科の方はしっかりと書いてある。ここがアンバランスなところであり、今回コロナで問題になったこともあり、地域医療構想とか第8次医療計画にかかりつけ医についての記載がどんどん増えるはずで、このかかりつけ歯科医と同じようにもうちょっと詳しく、書く人が意識するような形で書いていただければ。例えば庄内病院を受診したからといってかかりつけ医には実際にはならない等のコメントは入れる入れないは別として、もう少し詳しく入れていただきたいと思っています。

その他についてはかなりいろいろ配慮していただいて、非常にいいかと思っています。

4. 協議

「いきいき健康つるおか21保健行動計画」重点項目の進行管理について

- ・保健行動計画 健康増進 食生活分野 重点項目「350g野菜を食べて8g減塩」
(事務局説明)

委員：

どうしたら皆さんが興味を持つのかなっていうところをお話しさせていただきますが、やっぱり野菜を食べて塩分っていう繋がりがちょっと見えにくいと思います。

連携については、点と点から結べるように広報や支援活動していただくと、野菜も食べてそれが減塩に繋がるとか、そういうのやっていただくといいのかなあと感じたところがあります。いいところ悪いところをちゃんと照らし合わせて、こうしたほうがいいんだよっていう提案をしていただくと、よりいいのかなと思います。

栄養士仲間が集まった時に、庄内の人にはラーメンが大好きだけど、ラーメンには塩分が多く、ラーメンを食べることによって、本当に血圧が高くなるのかっていうのがわからないと思う。そこで、その辺のところが見えてくると、多分意識が変わって、例えば週に3回食べていたのを、塩分が控えられ血圧が高くない。というのがわかるような啓発につながればいいのかなあとか、個人的な感想です。

委員：

スマートイートは若い世代を中心に、生活習慣病予防という取組と思いますが、先程も話しましたが、今後、高齢者が増えていって、実はそのメタボ予防というよりはフレイル予防というところで食事が非常に重要です。

最近、国から出されたいろんな骨太の方針でも食事、運動、社会参加、口腔、この辺りが今後非常に重要になってきます。ということも含めると、スマートイートは高齢者対象じゃない感じで書いてありますが、やっぱりある程度の高齢者を対象に蛋白を多くとるところをしっかりと認識していただくことが非常に重要で、今後、高齢者が増え、高齢者フレイルが多くなってきて、いわゆる健康面の予防だけではなく、フレイルを介護予防するとか、これは非常に重要な項目、お金に関しても、やっぱり保険料も含めて非常に重要になってくるので、このあたりの視点を入れていきながらだんだんそれを強くするというような戦略がどうしても必要だと思っています。

このところに塩分と野菜とがありますが、やっぱり高齢者に向けて蛋白の摂取を、意識していただくことは、まず市としては大事なことでないかなと思っています。

そういった項目を入れていただきたいと思っています。

・保健行動計画 健康増進 運動分野 重点項目「日常生活を活動的に！さあ運動+10」
(事務局説明)

委員：

運動しようと思って、いろんな企画がある中で、参加してもらえるクラスがたくさんあるのはいいなと思いますけど、市の事業だったりヘルスアップセミナーだったり、とても熱心に取り組んでいただいている地域だと思っています。

ただ、どこにいても感じるのですが、来てくださる方に運動を提供するのは、何とかなるところですが、来てくださらない方を運動に引き込むのはとても難しいと思っています。もうちょっと身近な地域で、例えば公民館とか自分の町内だとか、にこふる館内にたくさんいろんなものが貼ってあるんですけど、そのような資料が普段行くところに貼ってあれば意識の向上につながるのではと思います。

あとコミセンや公民館、学校行事などで何をしようかなって悩む場面があると思うんですが、その時に運動プログラムを提供できるよという情報を発信し、具体的にこんな教室ができますみたいなどを提供したり指導者を紹介したり、連絡先を紹介したり、一般市民のもうちょっとまとめ役的なところに情報発信していただくと、そんな教室が地域でも増えていくのかなと思ったりします。

百歳体操で集まっているサークルが98から130に増えているということでしたので、その辺りで集まっている方たちから、地域のリーダーとなっていただいて、運動する機会をやっていただければと思います。

委員：

本来は出てこない人をどう巻き込んでいけるかという取り組みだろうと思います。百歳体操は結構地域での事業でやられてる。そこにこういったプログラムを一緒にやって巻き込むことができないかと思います。百歳体操の時間しかないということですが先ほどのリーダー的な人を育て、そこでいろんな人を巻き込んでいくという戦略、これが、おそらく適切な戦略になると思います。

東大の先生が全国的にいろんなことやっていて、いろんなデータを集めてオープン化して、継続的なものでかつ成果をちゃんとチェックするような形になっていけばいいのか、百歳体操あたりをうまく使うのはいいかと思っています。

アドバイザー：

百歳体操は、もともとの高知の取り組みで、体操のために集まるだけではなくて、人が集まることが結局は続けていけるということと、やっぱり身近に、5分くらいに集まれる場所があるということの両方が大事です。先ほどの食のともありましたけど、結局高齢者の皆さんの対策はみんな共通で、体動かせば非常にいいことがわかってますし、認知症予防にもなるので、そういうことをうまく伝えるということが大事だと思います。

委員：

質問ですが、百歳体操とかみかみ体操で2種類あると思うんですけど、この体操の両方行われているんですか。

事務局：

歯科医師会にもご協力いただいておりますが、どの会場でも2つの体操をしています。週1回実施は134ですけども、コロナ禍で月2回に減らして実施しているところは160近くあると聞いております。

委員：

いろんな集まりに出てくるっていうことがその帰りに皆でちょっとお茶飲んだり、社会的な繋がりづくりっていうのは何にも効果があると思います。この運動の着手ですけど、対象層によってその必要性を感じる内容っていうのが違うと思いますし、高齢者に対しては、やはり認知機能低下予防になるというのはいい。認知症の発症関係とかもエビデンスが出ているので、そのあたりを高齢者に対して啓発していくとよいと思っています。

・保健行動計画 健康増進 がん分野 重点項目「胃がん撲滅」
(事務局説明)

委員：

がん検診の受診率向上という観点で、先ほど説明があった中学生ピロリ菌検査の取り組みをしていただいているということですが、例えば、これから社会に出るとか大学に進むとか色々進路が分かれてくる時期の高校生を対象にした、健康教育やライフプランに関する講座が色々と開催されると思いますから、そういったところでピロリ菌検査についてお話ししていただくと良いのではないかと思います。

それから、厚労省のがん検診のあり方に関する検討会の資料を踏まえての意見ではありますが、他の自治体での取り組み状況が載っていて、がん検診に関する資料の配布方法について、通常であれば自治体から直接対象者に配布されるものだとばかり思っていたのですが、公立学校に周知の資料を配布して、生徒から保護者に配布してもらうとか、公立学校の学園祭とかで来場した方に自治体が作成した資料を学生から配布してもらい働きかけるような取り組みをされているところがありましたので、面白いな、そういう発想はなかったな、と思ったところでした。

委員：

がん検診の受診を進めていく中で、特に胃癌に関しては、検診率は県内で一番庄内は高いです。ただ、死亡率も高い。理由は精検率が低いということです。

ですから第8次医療計画の方には、保健所として庄内地域は精検率を高めるということを具体的に入れました。市の方でも精検をしっかりと受けましょうを入れてもらうと相違がない。

もう一つ、昨日酒田の方で医師会長からお話のあった、子宮頸癌ワクチンの推奨というのは非常に重要ということです。各行政、子宮頸がんワクチンの接種については、鶴岡、酒田は山形県内の中でも非常にアクティブな方で大体全体的には嫌われているので、訴訟の問題とかですね。これははっきりしたエビデンスがでていて、日本以外では積極的に行われ、かつ、そのデータも出てますので、やはりここはあえて入れるべきではないかなと思います。

アドバイザー：

子宮頸癌については本当に流れが大きく変わって、子宮頸がんワクチンには、明確なエビデンスはあるので、ただ日本でいろんな経緯があって、かなり距離があった時期がありますけどもそこも随分変わってきて、やはり特に若い方たちのがんとしては非常に予防可能でございます。検診だけではなくてワクチンについても一次予防、二次予防と変わってきましたので、これを今後の大事なテーマとして、特にやはり将来子供を大事にしようという動きもありますので、そこをどういうふうにやっていくかってことは次のテーマですごく大事なところでまったく同じ意見です。

委員：

質問させてください。今のお話ですと精検を高めるということで、引っかけた方に行政の方からおそらくコールリコール運動じゃないですけどどうやってその方たちに来ていただくかっていうことでいろいろ取り組みされてきたと思うのですが、今、その一次で引っかけた方に対してはどのように精検を受けていただくかという取り組みをされてるのか、教えていただければと思います。

事務局：

精検勧奨についてお答えします。検診結果に精検の方には回報書を同封して送らせていただいております。その回報書は、検診受診後4ヶ月経っても、戻ってこない方に精密検査の受診勧奨を電話で行っています。日中繋がらない方には、夜間電話勧奨という体制を整えております。その後、さらに2ヶ月経過しても、まだ回答書が戻っていないという方に関しては、2回目の精密検査受診勧奨というように勧奨させていただいております。

令和3年度の精検受診率を見ていただければ、大腸と肺のところは若干低めですが、概ね90%を超える精検受診率となっています。

・保健行動計画 母子保健分野 重点項目「ママの安心サポート」
(事務局説明)

委員：

にこ・ふるという建物ができてから、我々の子育ての頃はこのような施設はなかったの
で、こういった所で色々な相談を受け入れてくれている体制が、私にとっては非常にうらや
ましい環境にあると思います。そんな中で、11週以下の妊娠届け出の割合とか、相談窓口
を知ってる割合も高く新規導入の取り組みも色々されているようですので、継続してやって
いただければと思っております。

委員：

子育て期のお母さんのサポート体制には出前保育とかサポートする仕組みがあり、子育て
支援の事業が充実しています。授乳で大変な時、3時間4時間ごとに授乳して睡眠不足のお
母さんが、ファミサポの利用で自分の健康を維持できてすごく助かった人がいました。また
ファミリーサポート利用料がすごく低価格なことに、すごくびっくりしています。そんなに
低価格で利用できるなら、もっと周知すれば、子育てで睡眠とれないお母さんが、自分の健
康を維持するのにいいだろうなあと思っています。利用しやすい料金というところも打ち出
していただけたら、子育て中のお母さんがもっと利用して体が楽になるんじゃないかと最近
思ったことです。子ども家庭支援センターで出前保育とかファミリーサポートとか、窓口にな
っていることがいいと思います。

それから、私は保育園を退職してから児童館に勤務していたので、地域の方、地域の子育
て支援センターとの関わりもありました。地域の児童館で相談にのった場合、関係の所につ
なぐということは少し弱かったように思いました。中央児童館に来館した悩みを抱えている
お母さんの場合、悩みによっては、保健センターなどへつなげる手段がなかったりしたも
んですから、子ども家庭支援センターや地域の方の先生と、児童館からもう少し連携したり、
地域の保健師さんとやりとりしたりして連携を少し深めていただけたらいいので、お願いし
たいと思います。

委員：

質問で恐縮ですけど、若い世代のお母さん達が情報を受ける方法はなかなか難しいと思う
のですが、どうでしょう。子育ての情報だったり、すこやか健診の周知など言葉でいろんな
情報をどのように届けていらっしゃるのか、というあたりを、使ってらっしゃるメディアっ
ていうこととの関連から教えていただければと思います。

事務局：

全員への通知、市のホームページや広報、子育て支援アプリ母子モ、で情報を発信してい
ます。母子健康手帳送付時や、訪問時にアプリを登録いただくよう周知しています。子育て
支援アプリ母子モは全員が登録しているわけではありませんが、2000人ぐらいの登録で、
増えているところです。

伴走型支援事業出産子育て応援金のアンケートから相談支援につなげていくことになるの
ですが、そのアンケートに関しては、事業を始めところです。

委員：

ありがとうございます。自治体によってそのあたりですごくご苦労をされていると思いま
す。私が委員をしている神奈川県鎌倉市の話で恐縮なのですが、市のホームページから
子育て支援をクリックすると、子育て支援情報ページに繋がり、一人親世帯をクリックすれ
ば、必要な情報が見られるようになっています。子育てのイベントを見て参加したいと思
えば、そこから申し込みもできるようになっていて、すぐにいっぱいになる状況だそうで
す。もうすでに先進的な取り組みをされていると思うんですけれども、情報ってその更新頻度
も大切で、どんどん情報がくると、そのアプリだったりラインを使われて、情報がいいよ
っていう口コミで広がってきたりもあると思うので、ぜひ引き続き頑張っていたきたいと思
います。

・保健行動計画 歯科口腔保健分野 重点項目「食後は（歯）ツルツル」
（事務局説明）

委員：

事前にいただいた資料、関連しまして、気づいた何点かについてお話をさせていただきたいと思っております。

まず新型コロナの影響で、学校や職場での歯みがき習慣や食後のうがいが薄れてしまっています。3年間のコロナ禍で経験したところを、皆さんの中で感染対策を考えながらやってらっしゃるという中で、今の状況からすると学校や職場の中で、食後の歯みがきを再開してもいいのではないかと個人的な意見もありますが、どうしても飛沫感染という観点から気になるという人もいます。医院に掲示しているポスターを持ってきたのですが、口を閉じて歯磨きをする、実はこれやってみるとかなり難しいというか、ちょっと大変なのですが、こういった方法を推奨しながら、だんだん歯みがきを再開するような方法をとってもいいのではないかと考えております。そんな手法を使って徐々に行い、せっかく定着した手段を再開するということをしてくれないかと考えております。

あと皆さんご存知だと思うのですが8020運動という、80歳で20本の歯を残そうという運動を30年前から行っております。30年前、本市で80歳で20本の歯がある人は7人～8人でしたが、現在は100人を超えている状況です。青年期、壮年期への啓発をしっかりしていくということが大事だと思います。その方法ですが、ちょっとアニメチックなポスターなのですが文字だけで書くよりは、こんな感じのイラストで書いてあると、結構皆さんも見してくれるのです。こういうことがあるんだと認識していただくと、歯周疾患検診を受けようとなることが大事だと思います。歯周疾患検診は確かに受診率が上がらないというようなお話をしますけども、是非とも市町村共済、公立学校共済の方が100%実施していただくことをやっていただくと、そこから周りの方へ影響を与えられると思います。皆さん受けているということになっていくと、賛同していただけると思いますので、ぜひ一緒にお話ししたいと思っております。

・保健行動計画 自殺対策分野 重点項目「一人で悩まず相談」
（事務局説明）

委員：

相談窓口の周知啓発、困っていきそうな方がいけば相談に誘導していく。そういう人を増やすという、地道ではありますがそれ以外のことはないのではと考えています。その関係で、ぜひ今後とも取り組みを強めていただきたいと思うこと、これは自殺予防対策ネットワーク会議などです。日常いろいろな相談するという立場からしますと心のサポーター研修の前に、ハラスメント研修を受けないといけないのではと思わないではない場面が多々あります。色々なトラブルが発生しないよう、巻き込まれない方策ですとか相談窓口の周知といったようなことも行っておりますので、どんどん広げていくことが必要と思っております。

委員：

自殺は様々な要因が複合的に絡み合っていてとても難しい部分もあると思うんですが、男性専門の相談窓口というのが、色々な場に行けると思います。他の自治体の話で恐縮ですが、都内では色々な区が男性の相談窓口ということで、男性の相談員、男性の臨床心理士という人が相談役になって始まっている電話相談窓口が増えてきています。どこの自治体も同じような課題を抱えていると思います。男性の相談しやすいメンタルの窓口ということ考えた時に、もちろん窓口を設けることも大事ですが、社会全体として男らしさはどうでなければいけないというジェンダー感、それ自体を変えていくことが大事なのかなと思います。ある男性窓口の男性相談のキャッチフレーズが、男らしくから、あなたらしくへみたいな感じで、男性だと感情を表出してはいけないとか、色々な先入観というか、そういうものがあると思いますけれども、感情を吐き出したり、感情コントロールをどうやったらうまくいくのか、人間関係に関するアドバイスをするような勉強会とセットで行うとか、相談

窓口では、誰にも話せないことがここでは秘密厳守でそばにこういうのがありますなど、情報を合わせて伝えていくといいと思いました。

議長：

8020 運動の周知方法を、広報にも載っているし、自分もこういう立場なので一生懸命見るわけですけども、そのやり方をもうちょっと見てわかるようなやり方が必要ではないかと思えます。

100 歳体操はグループ化しているところもある。そのグループに入る勇気がでない人もいる。百歳体操について、何かやり方とかちょっと考えて欲しいと思えます。

委員：

自殺対策の件については、おそらく色々な団体から、対策については考えがあり対策をしているところではあります。高校生に相談窓口をどの程度知っているか、利用しているかというところを、保健師がアンケートをとったところ。つい最近、山形県精神保健の総会でお話、発表しました。結論は皆さんの連携をしっかりしましょうという話で、今回もネットワークで連携をしながら対策を考えようという話になっちゃうんですけど、具体的にぎくばらんに集まって自分たちの持っているデータとか、今後どうしようかっていうところをやはりしっかりと集まって連携しながら進んでいくというのが、今やっているとありますが、そのあたりをやっぱりしっかりとやっていく。そのあたり、出していたデータ含めて、しっかりと本音で今後どうしようかというところがやっぱり具体的にしっかりとやっていかないといけないと思っております。その辺りは第 8 次医療計画の中には、連携を強化することが一応最終的な言葉を入れております。

それから歯科の方ですね、8020 はかなり古い、その後はオーラルフレールに変わってきている。先ほどの話しで 8020 を知らない人が多いのかもしれないですが、栄養の所でお話ししたとおり、口の機能、衛生も含めて、食事、運動、リハビリも含めて今後非常に重要になってくると厚労省も認めて、国も認めて、それは方針としてちゃんと明文化されているので来年の診療報酬はかなり変わってくると思えます。こういった食支援が、なかなか知っている人が少ないのですが、将来につながる非常に意味のある食べることについて、最後おいしいものを食べたいねって言って、にこっと笑って息絶える、それでも周りの大人は食べれてよかったと、誰でも納得できるので、できれば食支援について鶴岡市で、もう少し市民の方に啓発しながら、多職種での支援活動があることを、この健康生活の中にもうちょっと入れていただきたいということ、そうするとおそらく本人がそういう年になった時、或いは家族が困った時、家族が食べなくてどうしようかと悩んだ時、そこを見たらグループがあって、そこがちゃんと活動できる体制が、今庄内では北も南もできてるので、市の方の報告に入れていく形をとっていただければいいと思えます。

全体的にはですね、非常にこれ、WHO の健康の定義、健康日本 21 があって、我々も 1943 年ですかね、定義されたもの、その時の平均寿命は 50 幾つなのです。その時は、ほぼみんな戦争とか、要するに虚弱な時期をえないで死んでいます。今は虚弱な時期が男で 8 年、女で 12 年もあるのです。その前の段階でやっぱりいろんな後で起こってくることも健康というふうを考えて、介護を受けている人も健康で生きられる健康政策上入れるような形の対策をちょっと個別に入れてもらっているのか。健康日本 21 の第 3 期が出ていますが、高齢者のところ、完全にちょっと無視している感じで、あれは介護保険だろうみたいな形にしちゃっているのですが、介護予防は、ある程度必要な人しか対象になってなくて、基本的にそのちょうどいい移り変わりのところの一番大事なところが、日本では健康政策でもないし、介護予防でもないところで、まるっきり抜けていて、かつ日本の健康政策は、そのあとの不健康な人に関しては、全く対応していないのです。これだけ世界の長寿のところ。市町村は国の政策にプラスして独自にそこに入れられるので、そんな形を一応入れていただければ、ちょっといいかなというふうに思っております。

議長：

それでは意見もあると思いますが、時間も時間ですので、まとめとして、今日のアドバイザーより講評をお願いしたいと思います。

5. アドバイザーによる講評

アドバイザー：

ちょうど今年が鶴岡 21 保健行動計画最終年度ということで、それぞれこの数字も含めて皆さんの意見を拝見していると、やるべきことを本当にちゃんとやっていて、きちんと積み重ねてきています。また一方で、向き合っている課題も本当に全国共通で、よくやりながら、足りないところがある、見えているんだろうというふうに思います。

先ほどの百歳体操の話とか、自殺対策の話とかで聞いていたのは、ようやくコロナも開けたので、その地域活動の中のリーダーをどうやってサポートするかを考え、もう一度考えるといいかないと思いました。実はいきいき百歳体操を高知市に見に行った時に、やっぱり同じことが起こっていて、どんどん仲の良い人だけまとまっちゃうんです。高知の場合はお世話係と呼んでいて、それぞれの会場を担当する人達を逆にみんなで集めて、そういうことが起こらないように、みんなでどうやってやるかというだけでは市が応援します。それぞれの単位には手間をかけられないので、自立してやって全体でこう一緒にやっていくためにどうするかというリーダーづくりは市が応援することをやっています。

多分自殺予防も一緒に、僕もある時期 7、8 年前に温海での自殺対策予防の教室を市の庁舎一緒にやったこともあるんですけど、地域性があるって、そういう所に入っていくためには入っていける人を育てるとか、つなげるということですか、鶴岡のような大きな市は動かないので、コロナの間本当に皆さん苦労したと思いますけど、ようやくコロナも開けましたので皆さんからの話を聞いていると、そういうと地域のリーダーづくりをどうやって、サポートするなんてむしろこの場で大きく議論して、保健所の援助も受けやすいと思いますので、そういうことを考える時期かと思っておりました。

それから次期に向けてということで、冒頭説明していただいた健康意識行動調査で、我々は分析を担当させていただきます。今日皆さんからいただいたお話を少し念頭に置きながらデータを分析します。データは目標を持って解析をしないと使えないと思いますので、特に委員からもあったように、だんだん生活習慣病予防を超えてフレイル予防にどうつなげるかっていうことが、多分次の健康日本 21 の中でもっと強く出てくると思うので、それを超えてできるだけ、鶴岡は他の所よりいつも少しずつ早くやってきている地域ですから、そういうことに役立つような指標の作り方を、今回のデータからもぜひ作りたいと思います。意識行動調査は皆さんのご協力のもとにデータが集まって、やはりこの精度が高ければ高いほど、いろんなことが作っていけるとと思いますので、そういうことを次の協議会の時には、一緒に見ていただきながら考えることになると思います。

議事終了

6. その他

なし

7. 閉会挨拶（事務局）